

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑
 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全社的な3つの基本理念を踏まえた上で、事業所として「その人の尊厳・主体を尊重し、その人らしい普通生活づくり」を目指している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員を対象にしてホーム内研修を実施し、理念の共有化に努めている。また、毎月のユニット会議において月ごとのユニット目標及び職員各々の目標を設定し、理念の実践に取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族様等には毎月の入居者様の様子をお知らせするお便りや面会時及びケアプランの更新時などに理念を共有できるようにコミュニケーションに努めている。地域の人々とは散歩や買い物などでのふれあいを大切にして馴染みの関係づくりに努め、運営推進会議に出席をお願いして理解して頂けるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	朝夕の挨拶や様々な機会を通じて顔馴染みになって頂けるよう努めている。また、入居者様との散歩や買い物の折りなど気軽に声を掛け合える関係づくりに努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りや行事、近隣の学校の運動会などを見学に行くなどしてできるだけ地元の人々との交流に努めているが、自治会、老人会、行事等、地域活動への参加は図られていない。		老人会や地域の行事、地域活動へ参加し積極的に地域の人々と交流するなどの取組みを行っていききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近所に住んでおられる入居者様のご友人などが来られた時は他の入居者様と一緒にお茶を飲みながら歌を歌ったりして他の方々とも顔なじみになって頂けるよう配慮しており、近隣の方々がいつでも遊びに立ち寄れる雰囲気づくりに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、各ユニットの毎月の活動目標や職員の個別目標には自己評価及び外部評価を反映させて具体的な取り組みにつなげている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、できるだけ幅広い立場の人々の参加をお願いして、単なる報告に留まらず具体的な取り組み内容や改善課題を話し合い忌憚のないご意見を頂いてサービス向上に活かせるよう取り組んでいる。また、その場を通して地域の理解と支援を頂けるよう努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	折にふれ市や区の担当者との連携を心掛け、課題解決を図りながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ホーム内の研修を実施し制度の理解を図っている。また、制度の活用が必要と感じられる時は関係者との十分な話し合いの上で適切な支援が実現できるよう努めている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内の研修等を通して高齢者虐待防止関連法の理解を促している。また、具体的な虐待(目に見える虐待・無視する等の見えない虐待)に対する理解を深め、職員による虐待の徹底防止は勿論、他での虐待が見過ごされることのないよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ご本人、ご家族等が気兼ねなく話せる雰囲気づくりに配慮し個々に応じた分かりやすい説明を心掛け、十分な納得を確認した上で契約や解除を行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>各ユニットに誰もが利用できるご意見箱を設置したり、日々の生活の中や運営推進会議の折にも積極的に意見、不満、苦情を伺い運営に反映させている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、暮らしぶりや健康状態、職員の異動等は担当職員からのお便りで、金銭管理は支払い明細書等で定期的に報告している。また、面会時等にも個々の情報提供に努め、面会の少ないご家族等へは状況に応じて電話などでもお伝えしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>各ユニットごとにご意見箱を設置したり、面会時及び運営推進会議等でも積極的に意見、不満、苦情を伺うよう心掛け、前向きに運営に反映させていくよう取り組んでいる。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ユニット会議やリーダー会議などを通して定期的に意見や提案を聞く機会を設けている。また、日々の業務を通して現場職員の声に耳を傾け運営に反映させている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>質の高いサービスを提供できるよう入居者個々の生活スタイルを理解し、支援が必要な時間帯を職員間で把握、共有し、その集中する時間帯にできるだけ職員を確保できるよう日々柔軟な調整に努めている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職は必要最小限に抑える努力はしているが、担当職員等が代わる場合はサービスの質が低下しないよう総合的な情報の引き継ぎを充分行い、入居者様の感情的な動揺にも配慮して適切な対応が取れるよう努めている。</p>	
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しも適宜行われている。</p>	<p>事業所として各種マニュアルが整備され職員に周知されている。それを踏まえてユニットとしてのケアのガイドラインを作成しており見直しも適宜行われている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務の習熟度に応じてホーム内での研修を実施したり、各種資格の習得にも積極的にバックアップしている。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同等施設との交流に努めており、地域包括支援センターを通してネットワークづくりや勉強会への取り組みを始めている。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	全社的取り組みとしてストレスに対する相談窓口を設置している。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎月スタッフはサービスの質の向上を目指して個々に業務目標を設定している。それらに対する日々の実践や努力を把握し向上心を持って働けるよう努めている。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入居前の見学時や入居時には、ゆったりとお茶を飲みながらお話を伺う時間を作り、日々の生活の中で困っていること、不安なこと、続けたいこと、したいことなどをご本人から直接伺い、共感して安心して頂くことを信頼関係を築く第一歩として努力している。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	ご本人とは別の場所で気軽に話せる雰囲気をつくりながら、これまでの経緯や生活歴、現在の生活の様子、困っていること、不安なこと、今後の希望などを伺い、ご家族のご本人に対する思いを十分受けとめる努力をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の実情や要望を踏まえ、尊厳のあるその人らしい普通の生活を実現する上で求められる支援の段階的優先順位を考慮し、早急に必要とされる支援を提供しつつ、他のサービスの相互性も考慮して多様化を図り、生活の質の向上を支援している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	当初はできるだけ職員が寄り添って他の方々との会話を仲介したり場の雰囲気徐々に馴染めるようサポートし、好きなことやできること、気の合う入居者様などを見つけながら、徐々に意欲的な生活が実現できるよう工夫し支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の家事を通して昔からの生活の知恵を教えて頂いたり、郷土の四季折々の漬物作りやお菓子作りなども教えて頂きながら作っている。また日々の会話の中にこれまでの生活の中の苦労話や喜びなどを意図的に繰返し伺ったり、昔の歌や遊びを教えて頂くなど人生の先輩として敬愛し喜怒哀楽を共にしている。		入居者様が先生となって、家庭菜園での野菜作り、梅干しやたくわんなどの漬物作り、干し柿作り、新潟の郷土料理「のっぺ」作り、毎年恒例の笹団子作りなどに取り組んでいる。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りや面会時にはご家族に入居者様の生活の様子をお知らせし、ケアプランの更新時には支援内容を共通認識して頂いて、その方らしい生活が少しでも実現したり、体調が改善した時には共に喜び、なお一層の生活の質が向上するようご家族の協力をお願いしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族が面会に来られた時は差し支えない範囲でご本人から伺ったご家族の話などをお伝えしながらこれまでのご自宅での生活ぶりや生活歴などをできるだけ伺うよう心掛けています。		ご家族の面会が遠のいている場合は毎月のお便りでご本人のお気持ちなどをお伝えして面会に来て頂けるようお願いすることもある。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親せきやご友人との交流の継続はもちろん、自宅へ帰っての農作業、年末年始の帰宅、お盆やお彼岸、命日などの墓参りなどご家族の協力を得て支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎食の配膳やお茶入れ、衣服の繕いなど利用者様個々のできること、得意な家事の分担を通して利用者様同士の協力関係が形成されている。また、日々の生活の中で職員が会話を十分仲介することによって心配事や不安に対する入居者様同士の共感や励ましもある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された後もご家族の相談などに対応し関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の入居者様がどのような思いや希望を持っておられるのか常に伺ってはいるが真意は把握しづらい面も多く、できるだけ日々の暮らしの中での会話を充実させ表情なども考慮した上で、そこから感じられる思いや希望をくみ取る努力をしている。		センター方式C1-1・2を使って、一人ひとりの思い、暮らし方の希望、意向等の把握や理解を深め、職員間で共有化していく取り組みも行っている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人やご家族等からこれまでの生活歴や経緯をできるだけ伺っているが、入居後の暮らしの中でもご本人との会話の端々から情報を収集するよう心掛けている。		ご家族の面会時には、気軽にお話して頂ける雰囲気づくりを心掛け信頼関係を築きながら、入居者様個々のこれまでの生活に関する情報収集に努力している。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式C1-1・2および日課計画表を活用しながら、入居者様個々の一日の暮らしの流れに沿って生活状況を把握し、入居者様の総合的な姿を理解する中で入居者様個々が持っている力を発見するよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画策定に際しては担当者会議を開催し、ご本人の視点に立ってその人らしく暮らすための課題やケアのあり方について、気付きやアイデア、意見等を出し合い介護計画に反映させている。		担当者会議開催前にご本人、ご家族等、かかりつけ医などより充分お話を伺い日々の生活に対する思いや希望、体調管理上必要なケア等が把握できるよう努めている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの更新時および必要とされる時は事前にご本人、ご家族等に新たな思いや要望を伺った上で随時担当者会議を開催し、介護計画の見直しを図っている。		サービス提供方法等の微細な変更は入居者様個々の状況に応じて日々職員間の情報交換を密にしながら実施し柔軟に対応している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にはどのような働き掛けによってどのような会話や表情、行動が生じたかなどをできるだけ忠実に記録し、職員の独断的な判断や憶測などは記載しないよう心掛けている。そこから読取れる実践と結果、気づきや工夫を共有して職員間のケアの向上や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	年末年始やお墓参り、家族旅行等の外出支援及び外泊されても落ち着かずに急きょ戻られた時の速やかな受入れ、定期受診及び急病時の受診、普段ご家族が対応している受診でも身体状況によっては同伴やご家族に代わっての受診など柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地区の図書館の活用はもちろん処分本を頂いたり、近隣の公的施設から必要に応じて椅子やテントなどをお借りするなどしている。また、様々な近隣ボランティアの方々に来て頂いたり、救命救急の講習を近隣消防署にお願いするなどして入居者様の生活支援に努めている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所時及び介護認定更新時には担当ケアマネジャーと十分情報交換を行い入居者様個々の生活をより総合的に支援できるよう努めている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には常に出席を頂いており、その折りや様々な機会を通じて意見・情報交換を行い権利擁護や総合的な生活支援に向けて協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、入居前からのかかりつけ医による継続的な医療をご家族の同行で受けられている方も多いが、急に受診が必要となりご家族が対応できない時は職員が同行し状況を説明し、ご家族が同行される場合には詳しい状況を手紙にして持参して頂くなどしてかかりつけ医との情報交換及び関係構築に努めている。		かかりつけ医の変更を行う場合はご本人及びご家族の同意と納得を必ず頂いている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力関係にある医療機関の医師とは往診や受診の際に助言や指示を受け個別支援を行っており、ご家族の同行で受診されている場合には受診の際ご家族に状況を説明し、必要な時にはかかりつけ医宛に手紙を持参して頂くなどして助言や指示が受けられるよう努めている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日常的な健康管理は看護職員と介護職員が密に情報を共有しながら行っている。また、職員が同行しての受診の際はかかりつけの医療機関の看護職員からも生活上の留意点等のアドバイスを受けるよう努め気軽に相談できる関係を築いている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時の医療機関への入居者様個々の生活状況を速やかに提供できるよう常に情報提供書を作成し更新している。また、緊急時の入院先を職員間で周知し、かかりつけ医の協力も得てその医療機関との関係を継続できるよう努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居当初よりある程度心身の重度化が予見される場合はご本人及びご家族等とかがかりつけ医などの話し合いを行い対応方針の共有化を図っている。また、時間をかけて段階的に終末期に向かう場合は其々の段階でご本人、ご家族、かかりつけ医及び関係者等で繰り返し話し合い方針を共有化している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	認知が徐々に深くなってきている方、身体的な困難さが目立って増しておられる方などがおられ、かかりつけ医等のアドバイスを受けながら事業所としてできること・できないことを見極め、できるだけ日々の生活が普通に送れるよう取り組んでいる。また、今後の変化に備えて常にご家族、かかりつけ医等との情報の共有化を図っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	何らかの理由で他の居所へ移られる場合はご家族及び転居先のケア関係者等に対して、ご本人の日々の暮らしぶりや習慣、好み、これまで行ってきたケアの方針や工夫など詳しく伝えし、できるだけ別の居所へ移り住むダメージの軽減に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者様個々の尊厳や権利を守ることはケアの根幹であると考えている。そのためのケアの基本となる誇りやプライバシーを尊重した言葉かけや記録等の個人情報の取り扱いには日々充分努めており、社内研修時や毎月のユニット会議等においても常に検証し徹底している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>意思表示が可能な方については日常的生活行為の中の様々な場面で常にご本人の希望や思いを伺いながらご本人なりの納得を得た上でかかわっている。また、意思表示が困難な方については表情や全身での反応をみながらご本人の希望や思いを把握するよう努めている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者様個々の習慣やペース、生活リズムを把握し、それに合わせたその人らしい生活の基本となる流れづくりを工夫している。また、その日その日の希望や心情的変化に対応できるよう職員の休憩時間の取り方など柔軟に対応している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>着衣の選択、整容は多くの入居者様が自分で行っておられ、着方が違っていたり季節に合わない時のみご本人に納得して頂いた上で更衣して頂いている。また、化粧水など入居者様の好みのものを一緒に買いにいっている。</p>	<p>支援が必要な方に対してはご家族より以前のご様子など伺いその人らしい装いができるよう配慮している。行きつけの美容院等ある場合はご家族の協力を得て継続して頂いている。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎日夕食時の味噌汁作りと日曜日の昼食作りは常に入居者様と行っている。加えて入居者様の希望を伺ったり季節ごとの郷土料理を取り入れたりしながら各ユニット独自の昼食作りやおやつ作りも行っている。また、近隣のファミレスでの外食、生寿司等を買って来て食べるなども行っている。</p>	<p>通常の食事はホーム内の厨房から提供されているが茶碗と汁椀、箸は入居者様個々の好みの物を使って頂いており、それらの食器はユニットで管理しているため食後かなりの洗い物があり、洗う人、拭く人といった役割を入居者様が担っている。食材の買物、毎食のお茶入れ、配膳車の受け渡しなども入居者様が自発的に協力している。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>入居時にお酒やたばこを日常的に飲まれていた方が居られないため現時点では飲み物やおやつなどに対して入居者様一人ひとりの状況に合わせた対応に努めている。毎日のおやつは一緒に物としているが入居者様の希望を伺いできるだけ入居者様にも手伝って頂き手作りするよう努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄介助が必要な入居者様には排泄チェック表にて排泄パターンを把握した上でパターンに沿ったトイレ誘導を行っており、トイレでのおむつ交換にならないよう努めている。また、朝食後は必ずトイレに誘導し排便のリズムをつくっている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日実施されており大まかな時間帯はあるが、その日の入居者様の希望により、入る人、入るタイミングなど調整している。職員が入居者様個々の入りたい時間帯を把握しておりその時間帯に沿って入浴の言葉掛けを行っている。		歩行や立位が不安定で身体的介助が必要な方に対しては、職員間でその時々に応じて介助方法を共有化し同じやり方で入浴して頂き不安感や恐怖感を取除いている。また、家庭風呂での一人入浴という環境を活かして羞恥心等に配慮しつつ会話の少ない方には職員との一对一の会話を楽しんで頂けるよう努めている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ほとんどの入居者様が自分で起床、就寝されているが、介助が必要な方に対しては、ご本人の同意を得て起床、就寝介助し、体調の変化や疲れ具合をみながらお昼寝などとして頂き必要な休息が取れるよう柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしの中で入居者様個々が生活歴や力を活かして自発的にされたことや希望されていること、できることを常にみつけ職員間で共有し、それが張り合いや楽しみ、気晴らしとして継続していける環境づくりに努めている。		ホームの家庭菜園で野菜を作っている方、雑巾縫いや繕い物を一手に引受けている方、チラシのゴミ箱作りを日課とする方、毎食のお茶入れが担当となっている方、配膳車の運搬が役割となっている方、自分でお膳を取れない方に毎食お膳を届ける方、毎日職員と歌を唄い古い歌を教えて下さる方などがおられる。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を持っておられる方やある程度の金額を持っておられ必要に応じて欲しいもの買い物されている方など入居者様個々の希望や状況に応じて柔軟に対応している。また、自己管理が難しい方でも買い物に出たおりに支払をして頂くなどしてお金の所持や使うことへの支援をしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎朝のゴミ捨てや洗濯物干し及び取込み、草花の水やり、買い物などの日常的な暮らしの中で戸外へ出る行為を大切にしている。また、その日のご希望を伺い散歩に出たり、歩行が困難な方へは日向ぼっこにお誘いするなど心掛けている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年末年始の帰宅やお盆・お彼岸のお墓参りなどはご家族と出かけられている方は多い。中には時期になるとご自宅へ帰ってご家族と野菜の植えつけや収穫をされている方や定期的にご家族と外食やドライブ、美容院などへ出かけられる方もある。また、ご希望を伺って以前住んでおられた地域へドライブなども行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様への電話や手紙は速やかに取次いでいる。電話は居室や別室で受けて頂けるよう配慮し、手紙の代読を希望される場合は居室で読むなどしてプライバシーに配慮している。		事前にご家族とは電話のかけ方等について話し合いをさせて頂いており、ご家族への電話を希望された場合はご家族の状況を考慮した上でご希望に沿うよう努めている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室へ来客者分のイスをお届けしご本人の了解を得て室内温度の調節やカーテン開け閉めなど室内環境に配慮している。また、会話が難しい方は職員が仲介したり、常に見守りが必要な場合はリビングでお話して頂いたりして気軽に訪問して頂けるよう工夫している。		お茶をお持ちした際に初めてお会いした場合はご本人から紹介して頂くように心がけ、職員も顔馴染みになれるよう努めている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内の研修やユニット会議、日々の業務の中で折にふれ身体拘束に対する共通認識に努めている。		目に見える拘束や虐待に留まらず、入居者様を無視した職員同士の私語や疲れた態度、業務の時間割を入居者様の生活時間とするなどの行為も目に見えない拘束ととらえて拘束や虐待のないケアに取り組んでいる。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットの出入り口は日中施錠されておらず、エレベーターを使って自由に昇降することができるが、共通の玄関は施錠されている。運営者及び全ての職員が、日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しているが、鍵をかけないケアに充分取り組めていない。		常時帰宅願望の強い入居者様がおられ随時散歩などに努めているが、常時見守れない場合もあるためしかたなく施錠している。玄関脇の事務室に職員がいる時は来客者等必要に応じて解錠しているが、今後はセンサー等の設置や見守り体制の構築などを工夫して鍵をかけないケアに取り組みたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は入居者様のプライバシーに配慮し、トイレ、浴室、居室等の訪室時には必ずロック及び言葉掛けを行い、さりげなく入居者様の所在や様子を把握している。夜間は安眠を妨げたり驚かせたりしないよう十分配慮し、入居者様が施錠されている場合は必要以上の安全確認にならないよう心掛けている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者様個々の状況に応じて柔軟に対応している。はさみや針、湿布薬や軟膏など自己管理されている方も数名おられる。誤飲の可能性がある方もおられるため居室内の環境づくりを行い、夜間は夜勤者の目が届きにくい洗面台の手洗いせっけんを撤去し洗濯室を施錠するなどしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者様個々の状況に応じて予想できる事故を職員が共通認識し一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。また、ホーム全体で事故報告書やヒヤリハットの詳細を共有し再発防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	日頃より入居者様個々の身体的状況を把握し看護職員と情報交換して常に予想し得る急変に対しての対応を共通認識するよう努めている。また、随時看護職員によるホーム内の研修を行い、一般的な急変や事故発生時の応急手当や初期対応に備えている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年日中の火災に対する避難訓練は行っており職員間で誘導方法の共通認識は形成されており、飲料水や懐中電灯、ろうそくなどの備蓄も行っている。しかし、その他の災害や夜間に対する対応には課題がある。		様々な災害を想定しての非難誘導策への取り組みや夜間の対応、地域との連携にも取り組む必要がある。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居者様個々に対してできるだけ普通の生活を送って頂く上で想定できるリスクについては、入居時にご家族等には充分説明しご理解頂いている。また、心身の状況の変化に伴いリスクに変化があった場合にも面会時などにお伝えし理解を得て抑圧感のない暮らしを大切にしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は入居者様一人ひとりの普段の様子を把握し体調の変化や異常の発見に努め、兆候や変化に気づいた場合は職員間で報告し合い情報を共有して適切な対応に結び付けている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりの服薬の目的や副作用など理解するよう努めており、誤薬や飲み残し、薬を落とすなどのないよう服薬時には十分注意している。特に服薬内容が変わった時などは体調の変化に注意している。また、症状に変化があった時は速やかにバイタル記録のコピーなど添えてご家族やかかりつけ医に伝えている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘が心身及び行動に及ぼす影響について職員は十分理解しており、原因についても複数想定できている。入居者様個々に応じてできるだけ自然排便できるよう支援している。朝食後決まった時間帯にトイレ誘導をおこなったり、個々の排便を誘発する食品(ヨーグルト・冷たい牛乳など)を発見し利用したり、水やお茶を十分飲んで頂きできるだけ体を動かして頂くなど工夫している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員は口腔ケアの重要性を理解しており清潔保持を支援している。半数の入居者様は毎食後、義歯を洗いうがいをして自己管理されている。その他の方は歯磨きの言葉掛けで毎食後歯を磨かれている方や職員が義歯を預かって洗浄し口腔内をお茶や水でうがいされている方などがおられ就寝時のみ義歯洗浄されている方もおられる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の好き嫌いや服薬との関係に応じて個々に献立が変更されており毎食ほとんどの方が残さず食べておられる。体調の変化等で食欲が低下した場合は好きな物や食べやすいものをこまめに食べて頂いている。		個々の嗜好にあった飲み物を適時提供したり、常に自由にお茶が飲めるよう工夫し水分確保を支援している。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員が感染症に関する知識を深めその予防や対応の理解に努めている。特にノロウイルスやインフルエンザなどの流行時季には予防に努め発症時の対応マニュアルを準備して実際の対応が速やかに行えるよう取り組んでいる。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の予防のため消費期限の確認や新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。また、ユニット内の台所、調理用具、食器等の衛生保持に対する管理方法を取り決め実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に四季折々の草花のプランターやベンチを置いたり、洗濯物を干したりして家庭的な雰囲気づくりに努めている。入居者様の生活の場として安心して出入りでき、ご家族等や近所の人々が気兼ねなく出入りできるよう配慮している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂では居心地よく過ごせるようカーテンで眩しさをこまめに緩和し馴染みのある雑誌を置いたり、その時々合った音楽のCDを流しテーブルに季節の花を飾るなどしている。廊下は目的なく歩かれる方もあり壁面にホームでの行事等の写真を時系列で張り出したり入居者様の作品を掲示したりして見て歩けるように工夫している。		トイレには消臭剤を置き、汚物室等の臭いにも常に注意している。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き数人でテレビを観たり閑談できるスペースを設けている。廊下の突き当たりの窓辺にはベンチがあり植木鉢など置かれていて水やりなどしながら小休止される姿もある。		スタッフルームは常に出入り自由にしており、その窓からは夏場の夕日を観ることができしばらく外を眺める入居者様も多い。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時できるだけこれまで使ってこられたなじみの家具などを持ってきて頂くようお願いしており、長年使ってきたタンスや椅子、思い出のある人形や飾り物など持ってこられている方も多い。		新しいベットや家具などにされた場合はご家族の写真をお持ち頂いたりホームで作ったご本人の作品やお好きな風景の切り抜きなど掲示して居室内が落ち着ける空間になるよう工夫している。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の十分な換気及び日中のこまめな換気を行い空気のだよみに配慮し、温度、湿度計を設置して入居者様にとって快適な温度、湿度調整を朝夕の変化を考慮して行っている。また、個々の居室内の換気や温度調節も入居者様の了解を得て行ったり、それが難しい場合は入浴中や外出に行ったりして快適な環境づくりに努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不安定な方にはトイレに近い居室に入居して頂き、廊下を横断することなく手すりにつかまってトイレへ行けるよう配慮したり、居室内でつかまり歩きをしながらドアまで安全に歩けるよう家具の設置場所を工夫したりしている。		椅子からの立ち上がりが困難な方には手すりにつかまって立てる場所の食席に座って頂くなどしている。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の居室の場所が理解しづらい方には居室前に分かりやすい印を飾ったり、トイレには使用中の札を下げるなどして混乱を防いでいる。また、食堂の椅子には個々の誕生日ごとにイニシャル入りの座布団をプレゼントし分かりやすくしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの裏には家庭菜園を作り入居者様が四季折々に野菜など作っておられる。ベランダや玄関先は洗濯干場になっており、日向ぼっこができるようベンチも置いている。花壇やプランターもあり入居者様も参加して四季の草花の手入れや水やりを行っている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日の生活の中で入居者様一人ひとりの役割や出番をつくり、他の方々から「ありがとう」と言われる瞬間を大切に、できるだけ入居者様同士の会話をつなぎ同じ話題で泣いたり笑ったりと共感しあえる関係づくりに努めている。また、職員が入居者様から昔の歌や生活様式、食文化などを教えて頂く中で、人生の先輩として培ってこられた生活の知恵や人生観などを学び、入居者様一人ひとりの人生に共感しながらサポートできるよう取り組んでいる。